

# 公益社団法人しなの中小法人サポートセンター定款

## 第1章 総則

(名称)

**第1条** この法人は、公益社団法人しなの中小法人サポートセンターと称する。

(事務所)

**第2条** この法人は、主たる事務所を長野県長野市に置く。

2 この法人は、理事会の決議により従たる事務所を必要な地に置くことができる。

(公告の方法)

**第3条** この法人の公告は、電子公告により行う。

2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法により行う。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

**第4条** この法人は、公益法人、NPO法人など非営利公益組織が公益活動を円滑に行えるよう支援することにより、当該組織が社会の中で有益な存在として発展することに寄与することを目的とする。

(公益目的事業)

**第5条** この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 特例民法法人の移行手続に関するサポート
- (2) 特例民法法人、公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人、NPO法人の運営等に関する支援、研修会及び無料相談会等

の開催

- (3) 一般社団法人、一般財団法人、NPO法人の設立サポート
  - (4) 公益認定手続のサポート
  - (5) NPO法人等の組織変更に伴う手続のサポート
  - (6) 公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人、NPO法人をサポートすべき専門家を育成するための研修会等の開催
  - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項各号の事業は、日本全国において行うものとする。

(その他の事業)

**第6条** この法人は、その事業の推進に資するため、次の事業を行う。

- (1) 民間公益組織関係者の福利厚生事業
  - (2) その他前号に定める事業に関連する事業
- 2 前項各号の事業は、日本全国において行うものとする。

### 第3章 社員

(会員)

**第7条** この法人には次の会員を置く。

- (1) 正会員 この法人の目的、事業に賛同する者
  - (2) 利用会員 この法人の目的、事業に賛同する特例民法法人、公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人、NPO法人、その他民間の非営利組織
  - (3) 特別会員 この法人の目的、事業に賛同する特例民法法人、公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人、NPO法人、その他民間の非営利組織
  - (4) 賛助会員 この法人の目的、事業に賛同する前各号に規定する法人及び個人以外の法人、個人並びに団体
- 2 前項の会員のうち正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。

3 会員に関する必要な事項は、理事会の決議により、別に定める会員に関する規程による。

(社員の資格の取得)

**第 8 条** この法人の社員になろうとする者は、理事会の定めるところにより申込をし、その承認を受けなければならない。

(経費の負担)

**第 9 条** この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、社員になった時及び毎年、社員は、理事会において別に定める額を支払う義務を負う。

(任意退社)

**第 10 条** 社員は、理事会において別に定める退社届を提出することにより、任意にいつでも退社することができる。但し、退社によりこの法人に不利益を与えた場合は、その損害を賠償する責任を負う。

(除 名)

**第 11 条** 社員が次のいずれかに該当するに至ったときは、社員総会の決議により当該社員を除名することができる。

- (1) 定款その他の規則に違反したとき
- (2) この法人の名誉を傷つけ、またはこの法人の目的に反する行為をしたとき
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき

(社員の資格の喪失)

**第 12 条** 前 2 条のほか、社員は次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 総社員の同意あるとき
- (2) 死亡、破産、解散したとき
- (3) 催告があるにもかかわらず会費等の支払を怠ったとき

2 この法人は、社員がその資格を喪失しても、既納の入会金、会費その他の  
抛出金品は、これを返還しない。

## 第4章 社員総会

(構成)

**第13条** 社員総会は、すべての社員をもって構成する。

(権限)

**第14条** 社員総会は、次の事項について決議する。

- (1) 定款の変更
- (2) 社員の除名
- (3) 理事及び監事の選任及び解任
- (4) 貸借対照表、損益計算書、財産目録、キャッシュフロー計算書の承認
- (5) 解散
- (6) 残余財産の処分
- (7) その他社員総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた  
事項

(開催)

**第15条** 社員総会は、定時社員総会として毎年度9月に1回開催するほか、必  
要がある場合に開催する。

(招集)

**第16条** 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基  
づき代表理事が招集する。

2 総社員の議決権の10分の1以上の議決権を有する社員は、代表理事に対  
し、社員総会の目的である事項及び招集の理由を示して、社員総会の招集を  
請求することができる。

(議 長)

**第 17 条** 社員総会の議長は、代表理事がこれに当たる。

- 2 代表理事に事故があるときは、あらかじめ定めた順序により、他の理事が社員総会を招集し、議長となる。

(議決権)

**第 18 条** 社員総会における議決権は、社員 1 名につき 1 個とする。

(決 議)

**第 19 条** 社員総会の決議は、総社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席した当該社員の議決権の過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の 3 分の 2 以上に当たる多数をもっておこなう。

- (1) 社員の除名
- (2) 監事の解任
- (3) 定款の変更
- (4) 解散
- (5) その他法令で定められた事項

- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第 1 項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第 2 1 条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議事録)

**第 20 条** 社員総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び出席した理事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第5章 役員

(役員を設置)

**第21条** この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3名以上
  - (2) 監事 1名以上
- 2 理事のうち1名を代表理事とする。
  - 3 代表理事以外の理事のうち2名を業務執行理事とする。

(役員構成)

**第22条** この法人の理事のうちには、理事のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数（現在数）の3分の1を超えて含まれることになってはならない。監事も同様とする。

(役員選任)

**第23条** 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。

(代表理事及び業務執行理事の選任及び解職)

**第24条** 理事会は、代表理事及び業務執行理事を選定及び解職する。この場合において、理事会は、社員総会にこれを付議した上で、その決議の結果を参考にすることができる。

(理事の職務及び権限)

**第25条** 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 代表理事は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 3 代表理事及び業務執行理事は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

**第 26 条** 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況を調査することができる。
- 3 前 2 項以外については、法令の定めに従う。

(役員任期)

**第 27 条** 理事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。

- 2 監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。
- 3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
- 4 理事又は監事は、第 21 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

**第 28 条** 理事及び監事は、社員総会の決議によって解任することができる。

(役員報酬等)

**第 29 条** 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、社員総会において定める総額の範囲内で、社員総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

## 第6章 理事会

(構成)

**第30条** この法人に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

**第31条** 理事会は、次の職務を行う。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職

(招集)

**第32条** 理事会は、代表理事が招集する。

2 代表理事が欠けたとき又は代表理事に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

3 代表理事以外の理事は、代表理事に対し、会議の目的である事項を示して、理事会の招集を請求することができる。

4 監事は、必要があると認めるときは、代表理事に対し、理事会の招集を請求することができる。

(決議)

**第33条** 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

**第34条** 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第7章 会計

(事業年度)

**第35条** この法人の事業年度は、毎年8月1日から翌年7月末日までの年1期とする。

(事業計画及び収支予算)

**第36条** この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに、代表理事が作成し、理事会の決議を経て、社員総会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

**第37条** この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、代表理事が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書
- (5) 貸借対照表及び損益計算書の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号、第6号の書類については、定時社員総会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の

閲覧に供するとともに、定款、社員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事の名簿
- (3) 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(剰余金の分配)

**第 38 条** この法人は、剰余金の分配を行うことができない。

(特別の利益の禁止)

**第 39 条** この法人は、この法人の会員、役員、使用人若しくは基金の拠出者又はこれらの親族等に対し、特別の利益を与えることができない。

- 2 この法人は、株式会社その他の営利事業を営む者又は特定の個人若しくは団体の利益を図る活動を行う者に対し、寄附その他の特別の利益を与えることができない。ただし、公益社団法人又は公益財団法人に対し、当該法人が行う公益目的事業のために寄附その他の特別の利益を与える場合を除く。

(基金)

**第 40 条** この法人は、基金を引き受ける者の募集をすることができる。

- 2 拠出された基金は、基金の拠出者と合意した期日まで返還しない。
- 3 基金の返還の手続きについては、返還する基金の総額について定時社員総会の決議を経るものとするほか、基金の返還を行う場所及び方法その他の必要な事項を理事会において別に定めるものとする。

(保有株式)

**第 41 条** この法人が保有する株式（出資）について、その株式（出資）に係る議決権を行使する場合には、あらかじめ理事会において理事総数（現在数）の3分の2以上の承認を要する。

(公益目的取得財産残額の算定)

**第 42 条** 代表理事は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第 48 条の規定に基づき、毎事業年度の末日における公益目的取得財産額を算定し、第 37 条第 3 項第 4 号の書類に記載するものとする。

## 第 8 章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

**第 43 条** この定款は、社員総会の決議によって変更することができる。

(解 散)

**第 44 条** この法人は、社員総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(公益認定の取消し等に伴う贈与)

**第 45 条** この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く）には、社員総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定取消しの日又は当該合併の日から 1 ヶ月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(残余財産の帰属)

**第 46 条** この法人が清算をする場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第9章 情報公開及び個人情報の保護

(情報公開)

**第47条** この法人は、公正で開かれた活動を推進するため、その活動状況、運営内容等を積極的に公開するものとする。

2 情報公開に関する必要な事項は、理事会の決議により別に定める情報公開規定による。

(個人情報の保護)

**第48条** この法人は、業務上知り得た個人情報の保護に万全を期すものとする。

2 個人情報の保護に関する必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

## 第10章 補則

(法令の準拠)

**第49条** この定款に定めのない事項は、すべて一般法人法その他の法令によるものとする。

附 則

1 この法人の設立の登記日現在の理事及び監事は、次に掲げる者とする。

理事            中村隆敏      永原徹也      岩城久

監事            永原征夫

2 この法人の最初の代表理事は中村隆敏とする。